

Project

プロジェクト

10月号

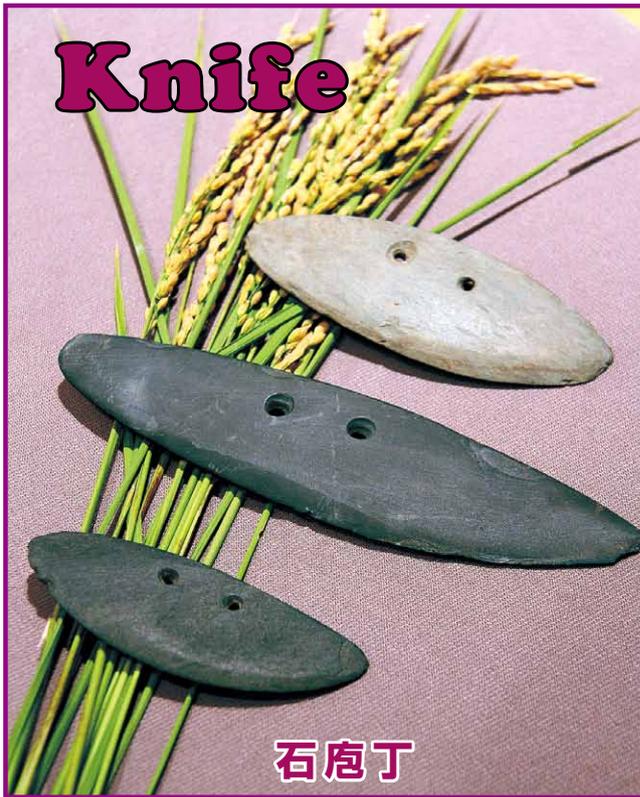
放射線タウン情報

2016.10.1 発行 No.8

【編集発行】

南相馬市健康づくり課

☎0244-24-5381



知っていますか？

お米の歴史

ルーツ

稲作

米や米の栽培法は、縄文時代の終わり頃、大陸から伝わりました。東北地方には弥生時代に伝来したことが遺跡調査で判明しています。

本市では、原町区の上渋佐や鹿島区の江垂（えたり）などで弥生時代の石庖丁が出土しており、当時米が栽培されていたことが分かっています。

原始的農業と先人の技術



南相馬市に見られる石庖丁は、新田川や真野川、その支流で豊富に採取できる「粘板岩（ねんばんがん）」と呼ばれる石が使われました。粘板岩には薄い板状に割れる特徴があり、石庖丁の作製に適しています。このような粘板岩製石庖丁は、地域の産物として遠く仙台平野まで流通したと見られています。

震災後

5回目の米作り

安全な米を届けるために 全量全袋検査を実施

南相馬市では、平成28年産米の全量全袋検査を9月下旬から開始しました。

今年の作付は、帰還困難区域を除き、旧避難指示解除準備区域及び旧居住制限区域が「実証栽培」、それ以外の地域は「全戸生産出荷管理区域」として作付が行なわれています。

昨年は729haの作付でしたが、今年は約1,750haに広がり、徐々に営農を再開する農家も増えてきています。



ベルトコンベア式検査機で線量を測定する様子



検査終了後には、一袋一袋検査済証を貼り付けます

現在の農地は、除染や放射性物質吸収抑制対策などを施している関係から、安心して食べられる米が収穫できる土壌になりました。

全量全袋検査は、米の安全性を確認し、安全・安心な米を届けるために実施しています。

また、全量全袋検査は、30kg袋に詰められた玄米については、「ベルトコンベア式検査機」で一袋一袋測定します。安全が確認された米袋には、検査済証シール、精米した米には精米シールが貼られます。

検査済証

精米ラベル



震災後の作付面積

区域	年	22年	24年	25年	26年	27年	28年
鹿島区		1,672 ha	7 ha	71 ha	45 ha	383 ha	約 830 ha
原町区		2,128 ha	7 ha	51 ha	56 ha	339 ha	約 915 ha
小高区		1,230 ha	1 ha	1 ha	5 ha	7 ha	約 5 ha
市全体(計)		5,030 ha	15 ha	123 ha	106 ha	729 ha	約1,750 ha

(平成28年9月20日現在)

※平成28年の作付面積は、収穫後に確定します。

過去の検査状況

※平成26・27年産米の全量全袋検査では、基準値を超えた米はありませんでした。

年度	26年	27年
検査件数	11,142件	21,390件
検査結果	全て基準値以下	